

項目	内 容	評価	意見・改善方法
子どもの発達・援助	1. 指導計画の評価を定期的に行い、反省を生かし結果に基づき指導計画を改善している。 ・ひとりひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B	指導計画の評価は定期的に行っているが、反省を生かした計画を取り入れるように、改善していきたい。 一人ひとりの子どもに対しては配慮した計画となっている。
	2. 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うための会議を定期的にかつ必要に応じて開催している。	A	毎月1回の職員会議の際、子どもの発達状況や保育についての情報を共有している。
健康管理	1. 登園時や保育中の子どもの健康管理は一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	B	保護者からの連絡事項を共有し、一人ひとりの健康状態に応じた健康管理を実施している。
	2. 感染症への対策についてはマニュアルがあり、発生に際してはその状況を保護者に連絡している。	B	マニュアルの作成がなされ、連絡は迅速に行っている。全職員へ発生状況把握の徹底に努めたい。
	3. 専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患を持った子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	B	今年度は専門医の指示まではなかったが、その日の体調により、発生する子どもに対しては、適切な対応をしている。
	4. 内科検診・歯科検診の結果について職員や保護者に伝達しそれを保育に反映させている。	B	検診結果を保護者に伝え、職員へ周知している。
食育	1. 食事を楽しむことができる工夫をしている。 ・手作りおやつ、季節感のある旬の食材、喫食状況に基づいた食事内容の改善、食育活動全般など工夫している。	B	個人差やその日の体調に応じ、無理のない食事、また楽しい食事ができるよう工夫している。今後もより一層、食育活動の充実に努めたい。
	2. 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	B	離乳食状況をはじめ、個別に連絡を取り合っている。
	3. 食物アレルギーは、個別に配慮し食事を提供している。		今年度は個別配慮が必要な子はいなかった。今後も必要に応じて対応していきたい。
保育環境	1. 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。衛生面の配慮や、不快なおいへの配慮をしている。	B	保育環境を充実させるために、職員間で話し合い、各クラス改善を行った。衛生面にも注意をはらっている。
	2. 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。 ・子どもが不安になったりしたときいつでも保育者が応じられるように身近にいる。 ・くつろいだり落ち着ける場所や、眠くなった時安心して眠ることができる空間が確保されている。	B	子どもが毎日を安心して過ごさせるような保育を取り入れ、子どもの欲求を受け止め、気持ちに沿って適切に対応している。

保育内容	1. 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。 ・子どもにわかりやすい温かな言葉づかいで話している。 ・子どもの気持ちを受け止めて、その都度対応している。	C	一人ひとりの思いを受け止め、子どもの気持ちに寄り添い適切に対応している。 子どもにわかりやすい、穏やかな言葉遣いを心得ていきたい。
	2. 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	B	個人差を踏まえ、また、体調やその日の気分に応じた保育を行っている。
	3. 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している。 ・子どもが自発的に活動できるように環境が整備されている。	B	保育課程、年間計画を基本とし、保育日誌で日々の保育の反省を反映できるように努力している。 また、園内研修を行い、保育環境の充実に取り組んだ。
	4. 身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	A	散歩や園外保育で身近な自然と触れ合うことを多く取り入れた。
	5. 様々な表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	B	環境を整えて子どもの気持ちを受け止め、さらに子どもの生活と遊びを豊かにする保育を目指していきたい。
	6. 遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	B	保育を通じ、子どもが人とのやりとりを楽しめるような環境を考え、豊かな心を育む保育を行った。
人権尊重	1. 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いをお互いに尊重する心を育つよう配慮している。 ・子どもの権利擁護に関する研修に参加している。	B	子どもの人権を尊重し、お互いに温かな心が育むように配慮している。 研修参加は十分とは言えないので積極的に参加したい。
	2. 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けられないよう配慮している。	C	性差への先入観等による意識を植え付けられないように配慮しているが、さらに努力していきたい。
特別支援保育	1. 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。	B	関係機関とは、必要に応じて受けている。助言をもとにより良い保育を行っていきたい。
	2. 支援が必要な子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	C	情報提供を試みているが保護者にもっと適切な情報を伝えるようにしたい。
保護者への支援	1. 医療機関、児童相談所の専門機関と連携をはかり、保護者にとって必要な情報を提供している。	B	保護者からの要望があれば専門機関と連携し、情報を提供している。
	2. 一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A	送迎時に子どもの健康面や家庭、園での様子を伝え、情報交換を行っている。保護者からの要望や相談があるときは個別面談を行っている。
要保護児童への対応	1. 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに関係機関などに照会、通告する体制が整っている。	C	研修会へ参加し、虐待防止に関する知識を深めているが、さらに職員間の情報の共有化を図り、体制を強化する必要がある。

一時保育の配慮	<p>1. 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状況を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。</p> <p>・一時保育を利用する子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。</p>	B	一時保育児と通常保育児との隔たりを作らず、子どもの心身の状況を考慮し、安心して過ごせるように努めている。
説明責任	<p>1. 理念や基本方針が利用者等に周知されている。</p> <p>・情報提供(摇篮・パンレットなど)について伝える工夫をしている。</p>	A	入園の際に保護者へ説明を行っている。またパンフレットなどを利用し、伝達の工夫をしている。
安全対策・事故防止	1. 調理場、水回りなどの衛生管理はマニュアルに基づいて適切に実施されている。	A	マニュアルに基づき実施し、日々衛生管理には十分注意を払っている。
	2. 施設の内外・設備の安全点検を計画的に行っている。	A	職員による毎月の施設内外整備、遊具等の点検を実施している。
	3. 不審者等に対する周到な配慮を行っている。	C	年2回訓練を行っているが、周到な計画、行動ができるような対策を講じていく。
研修計画	1. 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	職員一人ひとりが、教育、研修の場に参加できるように配慮している。
	2. 資質向上の取り組みを行っている。	A	園内研修で一人ひとりが発言したり、園外研修で得た学びを伝達し合い、資質向上を図り、保育に反映させている。
情報保護	<p>1. 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。</p> <p>・遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。</p>	C	個人情報に関しては、管理を適切に行い、取扱いに配慮している。法令等の正しい理解への取り組みに努めなければならない。
苦情処理	1. 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	B	保護者と話しやすい環境づくりを行い、信頼関係を深めるよう努めたい。
	2. 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知されている。	B	保護者に説明を行い、理解を得ている。
地域との交流	1. 地域との関係が適切に確保されている。	B	地域の方と会った時は、こちらから挨拶したり、園の様子をたよりにして回覧するなどの取り組みを行っている。
	2. 保育所が有する機能を地域に還元している。	B	地域の祭りに積極的に参加し、地域の活性化やまちづくりに貢献している。
小学校との連携	1. 小学校との間で行事などの交流する機会を設けており、職員間の研修などの連携体制が整備されている。	B	小学校の行事に参加したり、園へ招待するなどの交流を深め、就学に向けた連携を図っている。